

災害も原子力も
暮らしについてくる
勉強だ

おおわだ まさひろ
大和田 正博

株式会社ダルマイサー 代表取締役

昭和29年（1954）、富岡町生まれ。

中学卒業後、東京で寿司の技術を学び、26歳でUターン。故郷・富岡町で料理人として勤務。1999年、榎葉町に「ナラハ仕出しセンターだるま」を開業。被災後は小野町の空き店舗を借りて営業しながら、区長として住民の生活相談や交流に尽力する。2018年に「なら福」として榎葉町で営業再開した。

「なら福」は近隣の方々に美味しい食事やお酒を提供する場、そして大事な行事に仕出しを届けられる店になればと思って再開しました。

被災して、皆バラバラになって、区長として声がけしながら毎年交流会をして来たけど、集まる人が少なくなってきてね。商店街で店をやらないかという話もあったけど、元の場所で地元を元気にしたいと思った。除染、廃棄物、家の解体とか移転とか、ガイドラインのこととか、震災後は毎日相談、相談で活動が山のようにあった。店もやりながら、何か相談があったらすぐそのまま町に行ったり環境省さんに行ったりしましたよ。今はもうほとんど落ち着いて、皆の生活は離れ離れになって、ここで暮らす人は2、3割くらい。一番変わったのは、津波で流されたところは住めなくなったってこと。

それと放射能だね。「なら福」には、オープンと同時にモニタリングポストをつけてもらった。数字が見えるように表向きにしてね。ちゃんと見えたほうが安心できるじゃない。災害も原子力も、我々の暮らしに常についてくる。一緒になって生活していかなきゃならない。国や行政とも一緒に考えて、皆で勉強会もして、こうやって暮らしていくんだよねって思っています。



地区の皆さんとの交流会。
参加者は少なくなりつつも、毎年開催している